

# 青森県経済統計報告

令和2年11月4日

企画政策部統計分析課

## 1 青森県の推計人口（令和2年10月1日現在）…………… 1

県人口 1,230,715人（対前月846人減少）

自然動態 862人減少（出生者数 547人、死亡者数 1,409人）

社会動態 16人増加（転入者数 1,292人、転出者数 1,276人）

※ 令和2年10月1日現在の人口は、国勢調査の速報値（令和3年6月予定）及び確定値（令和3年11月予定）の公表後に遡及改訂する。

## 2 本県の経済動向（令和2年8月・9月の経済指標を中心として）

### （1）経済概況

本県経済は、一部に持ち直しの動きがみられるものの、新型コロナウイルス感染症の影響から、厳しい状況が続いている。

なお、直近の景況感（青森県景気ウォッチャー調査・令和2年10月期）をみると、前期に続き大幅に改善したが、景気の横ばいを示す50を下回った。

### （2）主要経済指標の動向

- (2-1) 生産動向 ・令和2年8月の**青森県鉱工業生産指数**（平成27年＝100）は、季節調整済指数が92.7で、前月比0.1%の低下となり、2カ月ぶりで前月を下回った。また、原指数は88.6で、前年同月比1.8%の上昇となり、5カ月ぶりで前年同月を上回った。 … 2
- (2-2) 雇用労働 ・令和2年8月の**定期給与**は220,946円で前年同月比0.2%減となった。 … 3  
・**総実労働時間**は142.1時間で前年同月比4.4%減、**所定外労働時間**は9.0時間で前年同月比12.6%減となった。  
・令和2年9月の**有効求人倍率**（季節調整値）は0.89倍で、前月を0.02ポイント下回った。
- (2-3) 物 価 令和2年9月の**青森市消費者物価指数**（平成27年＝100）は、総合指数が102.3となり、前月と比べ0.2%の上昇、前年同月比0.4%の下落となった。また、生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は102.6となり、前月と比べ0.1%の上昇、前年同月比0.2%の上昇となった。 … 5
- (2-4) 個人消費 ・令和2年9月の**百貨店・スーパー販売額**は、140億円で全店舗ベースが前年同月比7.1%減となり、2カ月連続で前年同月を下回った。また、既存店ベースでは前年同月比8.5%減となり、7カ月連続で前年同月を下回った。  
・令和2年9月の軽乗用車を含めた**乗用車新車登録・届出台数**は3,954台で、前年同月比14.4%減となり、12カ月連続で前年同月を下回った。  
・令和2年9月の主な観光施設の**観光入込客数**は、58万1千人で前年同月比33.1%減となり、7カ月連続で前年同月を下回った。また、主な宿泊施設の**宿泊者数**は、16万9千人で前年同月比20.9%減となり、8カ月連続で前年同月を下回った。 … 6
- (2-5) 建 設 ・令和2年9月の**新設住宅着工戸数**は479戸で、前年同月比24.1%減となり、13カ月連続で前年同月を下回った。 … 8  
・令和2年9月の**公共工事請負金額**は236億5,000万円で前年同月比11.1%増となり、3カ月ぶりに前年同月を上回った。
- (2-6) 企業倒産 令和2年9月の**企業倒産**は、件数は1件で前年同月比50.0%減となった。 … 8  
負債総額は1,600万円で前年同月比62.8%減となった。

### （3）景気動向指数C I（令和2年8月分）…………… 9

先行指数 95.5（前月を0.6ポイント下回り、4カ月ぶりに下降した）  
一致指数 47.1（前月を0.9ポイント下回り、2カ月ぶりに下降した）  
遅行指数 107.9（前月を1.3ポイント下回り、2カ月連続で下降した）

### （4）青森県景気ウォッチャー調査（令和2年10月期）…………… 10

3カ月前と比べた景気の現状判断D I …… 49.5（前期比15.0ポイント増、11期連続で50を下回る）  
3カ月後の景気の先行き判断D I …… 48.5（前期比10.5ポイント増、6期連続で50を下回る）

# 1 青森県の推計人口（令和2年10月1日現在）

## 【概 況】

令和2年10月1日現在の本県推計人口は、1, 230, 715人で、前月に比べ846人の減少となった。

## ○自然動態

出生者数が547人、死亡者数が1, 409人で、862人の減少となった。

## ○社会動態

転入者数が1, 292人、転出者数が1, 276人で、16人の増加となった。

## 総人口の推移

（単位：人）

	総数	男	女	対前月 増減率	増減数	自然 増減数	出生者数	死亡者数	社会 増減数	県外からの 転入者数	県外への 転出者数
昭 45.10. 1	1,427,520	685,477	742,043	-	10,929	-	-	-	-	-	-
50.10. 1	1,468,646	707,232	761,414	-	41,126	-	-	-	-	-	-
55.10. 1	1,523,907	735,444	788,463	-	55,261	-	-	-	-	-	-
60.10. 1	1,524,448	731,439	793,009	-	541	-	-	-	-	-	-
平 2.10. 1	1,482,873	704,758	778,115	-	-41,575	-	-	-	-	-	-
7.10. 1	1,481,663	704,189	777,474	-	-1,210	-	-	-	-	-	-
12.10. 1	1,475,728	702,573	773,155	-	-5,935	-	-	-	-	-	-
17.10. 1	1,436,657	679,077	757,580	-	-39,071	-	-	-	-	-	-
22.10. 1	1,373,339	646,141	727,198	-	-63,318	-	-	-	-	-	-
27.10. 1	1,308,265	614,694	693,571	-	-65,074	-	-	-	-	-	-
令元. 10. 1	1,246,291	585,461	660,830	-0.047%	-586	-847	569	1,416	261	1,592	1,331
元. 11. 1	1,245,301	584,988	660,313	-0.079%	-990	-903	646	1,549	-87	1,262	1,349
元. 12. 1	1,244,403	584,597	659,806	-0.072%	-898	-986	575	1,561	88	1,074	986
令2. 1. 1	1,243,282	584,080	659,202	-0.090%	-1,121	-1,018	553	1,571	-103	942	1,045
令2. 2. 1	1,241,902	583,414	658,488	-0.110%	-1,380	-1,230	582	1,812	-150	1,117	1,267
令2. 3. 1	1,240,587	582,838	657,749	-0.106%	-1,315	-973	506	1,479	-342	1,025	1,367
令2. 4. 1	1,234,523	579,730	654,793	-0.489%	-6,064	-976	561	1,537	-5,088	3,634	8,722
令2. 5. 1	1,234,393	579,791	654,602	-0.011%	-130	-856	624	1,480	726	3,211	2,485
令2. 6. 1	1,233,585	579,411	654,174	-0.065%	-808	-819	563	1,382	11	915	904
令2. 7. 1	1,232,681	578,939	653,742	-0.073%	-904	-790	631	1,421	-114	1,027	1,141
令2. 8. 1	1,232,064	578,750	653,314	-0.050%	-617	-729	626	1,355	112	1,506	1,394
令2. 9. 1	1,231,561	578,640	652,921	-0.041%	-503	-794	591	1,385	291	1,478	1,187
令2. 10. 1	1,230,715	578,175	652,540	-0.069%	-846	-862	547	1,409	16	1,292	1,276

## 9 月中の人口動態の推移

（単位：人）

年月		H22.9	23.9	24.9	25.9	26.9	27.9	28.9	29.9	30.9	R元.9	R2.9
自然 動態	出生者数	810	781	736	750	831	736	742	721	642	569	547
	死亡者数	1,297	1,224	1,181	1,273	1,434	1,328	1,336	1,286	1,351	1,416	1,409
	自然増減数	-487	-443	-445	-523	-603	-592	-594	-565	-709	-847	-862
社会 動態	県外からの 転入者数	1,571	1,474	1,382	1,563	1,528	1,521	1,478	1,578	1,210	1,592	1,292
	県外への 転出者数	1,493	1,584	1,491	1,498	1,491	1,622	1,412	1,429	1,403	1,331	1,276
	社会増減数	78	-110	-109	65	37	-101	66	149	-193	261	16
増減数計		-409	-553	-554	-458	-566	-693	-528	-416	-902	-586	-846

※1 昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22、27年は国勢調査人口（確定値）。

※2 平成27年11月1日以降の人口は、平成27年国勢調査人口（確定値 総務省統計局 平成28年10月26日）を基礎に推計している。

※3 増減数は、昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22、27年が各々の前回国勢調査、その他が前月推計人口に対するものである。

※4 算出方法

県の推計人口＝前月の人口＋自然増減数（出生者数－死亡者数）＋社会増減数（県外からの転入者数－県外への転出者数）

## 2 本県の経済動向

### (2) 主要経済指標の動向

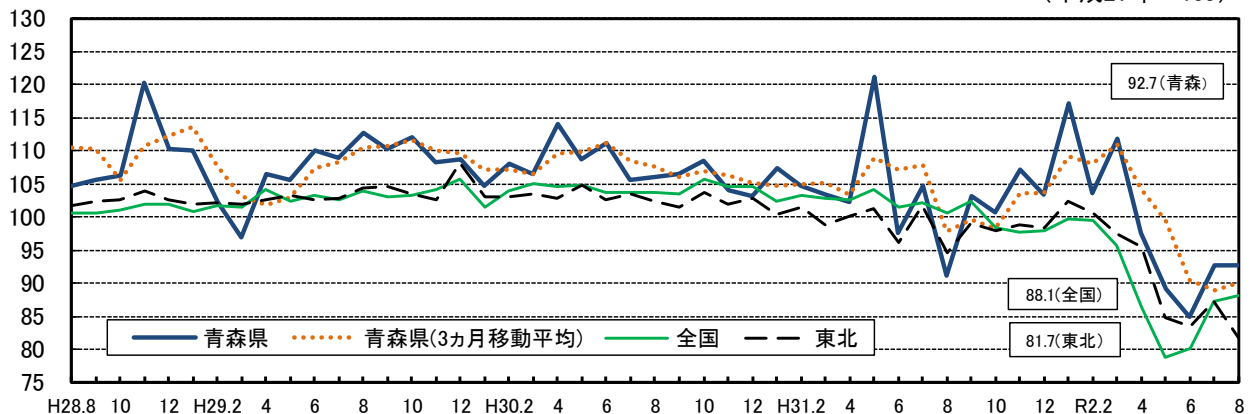
#### (2-1) 生産動向

令和2年8月の青森県鉱工業生産指数(平成27年=100)は、季節調整済指数が92.7で、前月比0.1%の低下となり、2か月ぶりで前月を下回った。また、原指数は88.6で、前年同月比1.8%の上昇となり、5か月ぶりで前年同月を上回った。

季節調整済指数で前月からの動きをみると、電子部品・デバイス工業、金属製品工業、非鉄金属工業等が上昇に寄与した一方、化学工業、パルプ・紙・紙加工品工業、生産用機械工業等が低下し、鉱工業全体では0.1%の低下となった。

青森県・全国・東北の鉱工業生産指数推移(季節調整済指数)

(平成27年=100)

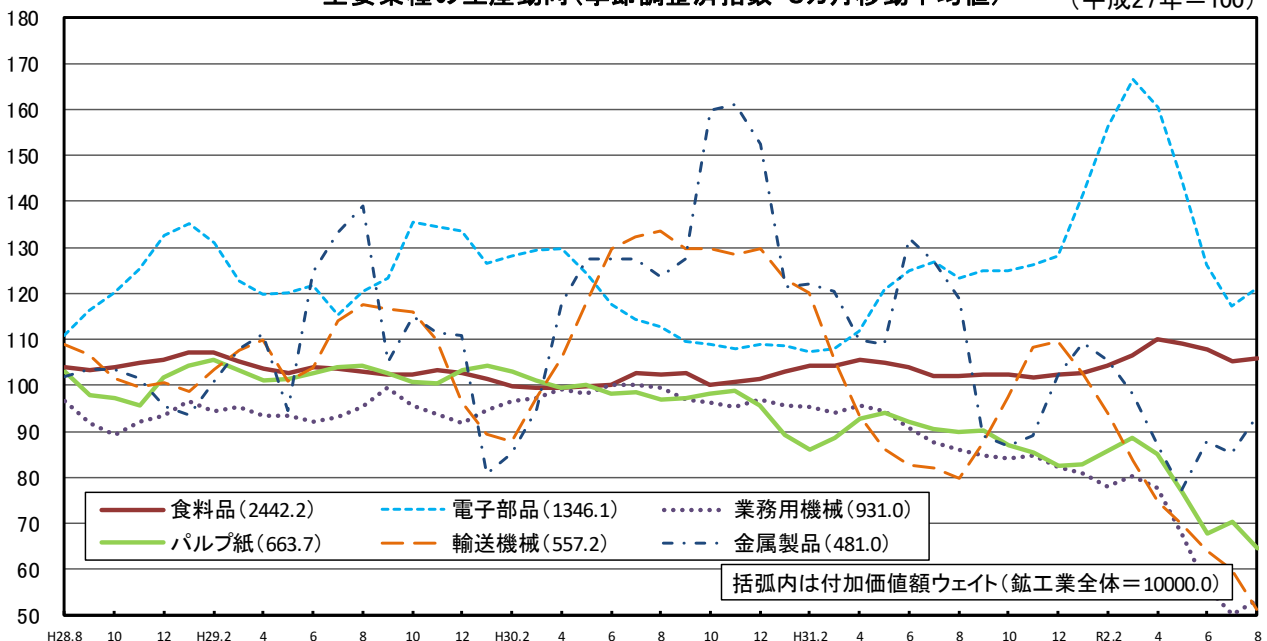


◎業種別動向(前月比) 鉱工業全体 -0.1%

プラス			マイナス		
業種	前月比(%)	寄与率(%)	業種	前月比(%)	寄与率(%)
電子部品・デバイス工業	15.0	294.6	化学工業	-46.6	-223.6
金属製品工業	44.4	155.5	パルプ・紙・紙加工品工業	-33.2	-212.1
非鉄金属工業	11.6	51.9	生産用機械工業	-10.9	-107.5
業務用機械工業	3.3	20.6	繊維工業	-9.1	-26.7
石油・石炭製品工業	40.4	16.1	印刷業	-4.7	-14.4

主要業種の生産動向(季節調整済指数・3カ月移動平均値)

(平成27年=100)



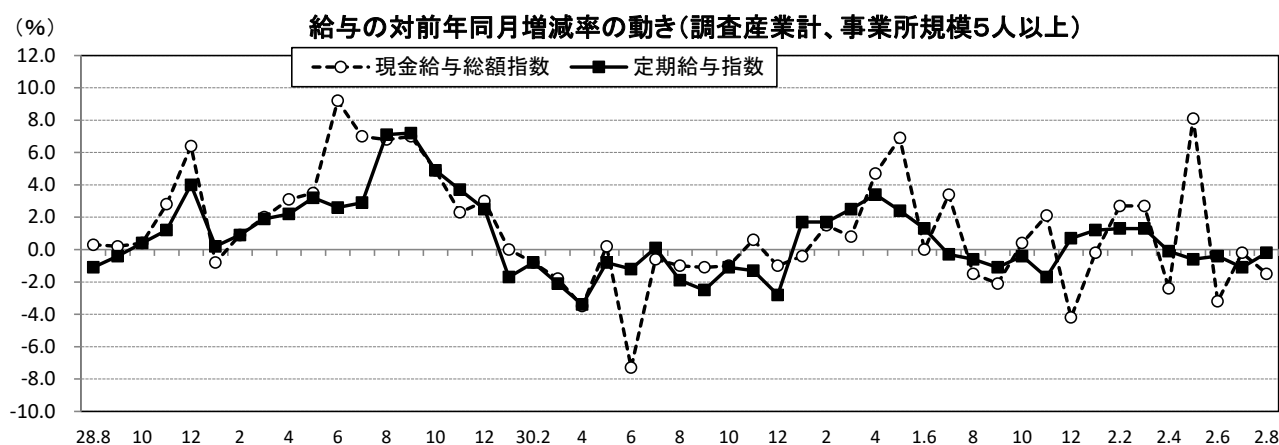
資料：県統計分析課「青森県鉱工業生産指数(速報)」

## (2-2) 雇用労働

### (2-2-1) 給与・労働時間（毎月勤労統計調査結果）

令和2年8月の定期給与は220,946円で、定期給与指数（平成27年＝100）では102.3となり、前年同月比0.2%減と5カ月連続の減（現金給与総額235,384円、現金給与総額指数93.9、前年同月比1.5%減）となった。また、実額で比較した定期給与の全国対比は84.7となった。

総実労働時間は142.1時間で、総実労働時間指数は91.9となり、前年同月比4.4%減と5カ月連続の減となった。このうち、所定外労働時間は9.0時間で、所定外労働時間指数は78.3となり、前年同月比12.6%減と5カ月連続の減となった。



資料：県統計分析課「毎月勤労統計調査結果（速報）」

### 給与及び労働時間の全国との比較（調査産業計、事業所規模5人以上）

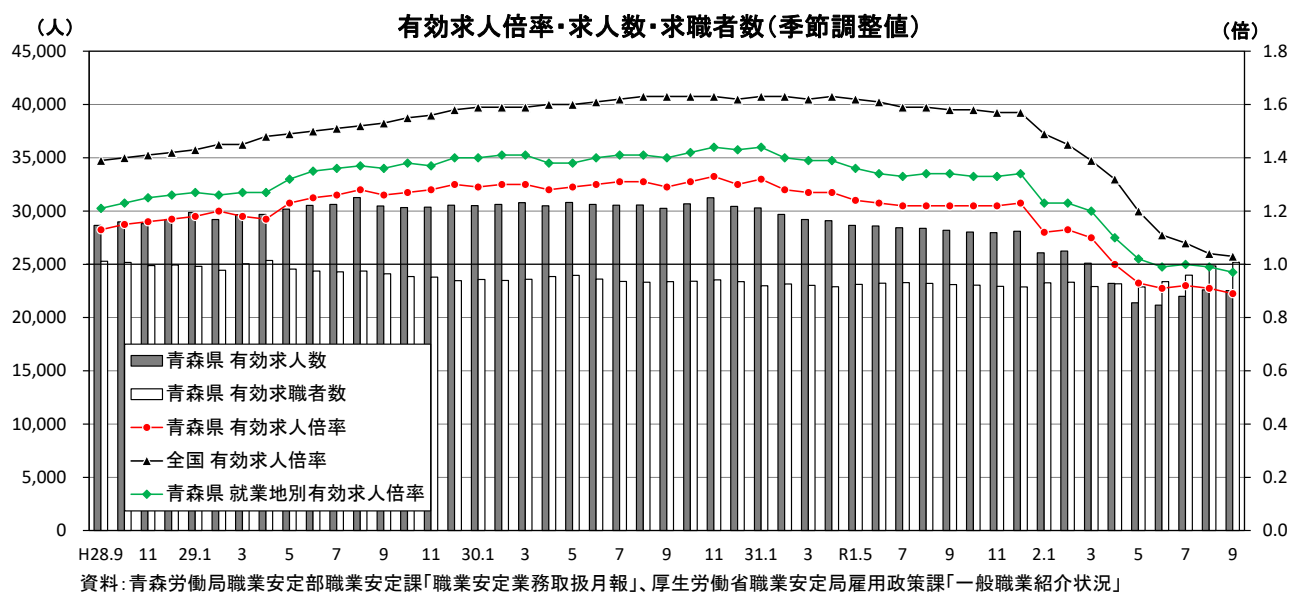
	実 数		指数（H27=100）		対前年同月増減率	
	青森県	全 国	青森県	全 国	青森県	全 国
現金給与総額	235,384 円	273,243 円	93.9	86.6	-1.5 %	-1.3 %
定期給与	220,946 円	260,716 円	102.3	100.1	-0.2 %	-1.3 %
特別給与	14,438 円	12,527 円	—	—	—	-0.6 %
総実労働時間	142.1 時間	128.8 時間	91.9	89.2	-4.4 %	-5.1 %
所定内労働時間	133.1 時間	120.3 時間	93.0	90.1	-3.7 %	-4.5 %
所定外労働時間	9.0 時間	8.5 時間	78.3	77.3	-12.6 %	-14.1 %

- (注) 1. 「定期給与」とは、あらかじめ定められている支給条件、算定方法によって支給される給与のことで、超過労働給与（所定の労働時間をこえる労働、休日労働、深夜労働に対して支給される給与）を含みます。
2. 「特別給与」とは、給与の差額追給額（ベースアップ分）、3か月をこえる期間単位で支給される住宅手当や通勤手当、賞与（ボーナス）等のことです。
3. 「所定内労働時間」とは、正規の始業時刻と終業時刻との間から休憩時間を差し引いた労働時間のことです。
4. 「所定外労働時間」とは、早出、残業、休日出勤等の労働時間のことです。
5. 全国の数値については、平成30年11月確報から、平成24年以降において東京都の「500人以上規模の事業所」についても再集計した値（再集計値）に変更しており、従来の公表値とは接続しないことにご注意ください。また令和元年6月分速報から「500人以上規模の事業所」について全数調査による値に変更していることにご注意ください。

資料：県統計分析課「毎月勤労統計調査結果（速報）」

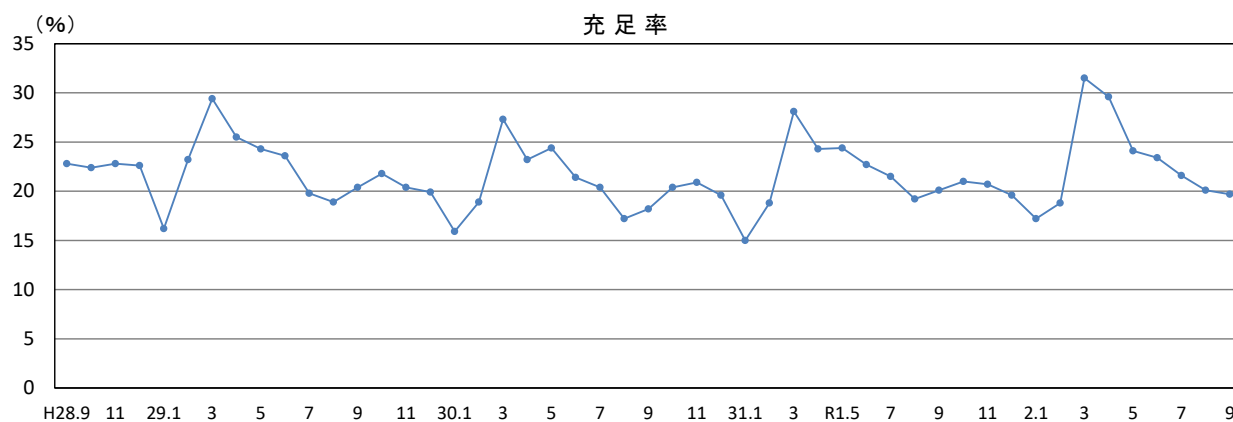
## (2-2-2) 有効求人倍率

令和2年9月の有効求人倍率（季節調整値）は0.89倍で、前月を0.02ポイント下回った。就業地別有効求人倍率は0.97倍で、前月を0.02ポイント下回った。



## (参考) 充足率（新規学卒者を除きパートタイムを含む）

令和2年9月の充足率は19.7%で、前年同月を0.4ポイント下回った。



## (2-3) 物価

令和2年9月の青森市消費者物価指数(平成27年=100)は、総合指数が102.3となり、前月と比べ0.2%の上昇、前年同月と比べ0.4%の下落となった。

生鮮食品を除く総合指数は102.0となり、前月と比べ0.1%の上昇、前年同月と比べ0.6%の下落となった。

生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は102.6となり、前月と比べ0.1%の上昇、前年同月と比べ0.2%の下落となった。

総合指数が前月と比べ0.2%の上昇となった内訳を寄与度でみると、食料、被服及び履物などの上昇が要因となっている。

総合指数が前年同月と比べ0.4%の下落となった内訳を寄与度でみると、光熱・水道、諸雑費などの下落が要因となっている。

図1 総合指数の動き

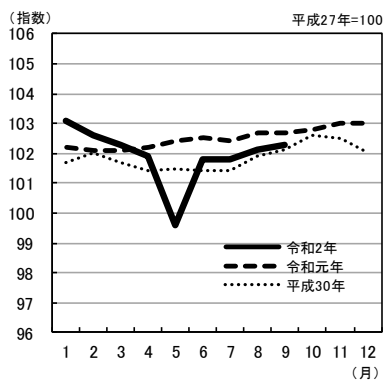


図2 生鮮食品を除く総合指数の動き

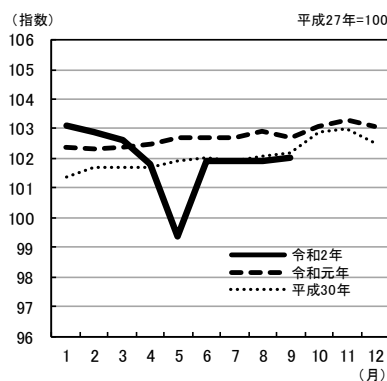
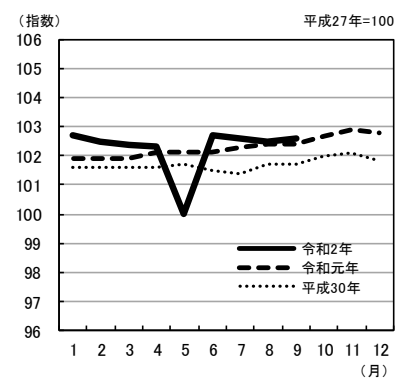


図3 生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数の動き



### 10大費目指数の動き

(平成27年=100)

	総合	生鮮食品を除く総合	生鮮食品及びエネルギーを除く総合	食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合	食料	生鮮食品	住居	光・熱・水道	家具・家用品	被服及び履物	保健医療	交通・通信	教育	娯楽	諸雑費
当月指数	102.3	102.0	102.6	101.0	107.6	107.2	101.5	99.0	102.8	105.8	102.2	97.4	95.2	102.9	97.6
前月比(%)	0.2	0.1	0.1	0.0	0.6	1.3	0.0	0.2	1.3	3.3	0.0	▲0.9	0.0	▲0.9	0.1
寄与度	—	0.10	0.11	0.01	0.16	0.07	0.01	0.02	0.05	0.10	0.00	▲0.11	0.00	▲0.07	0.00
前年同月比(%)	▲0.4	▲0.6	0.2	▲0.1	1.6	3.6	1.0	▲3.9	0.8	▲0.3	0.1	▲0.8	▲7.4	▲0.3	▲5.4
寄与度	—	▲0.58	0.17	▲0.05	0.44	0.17	0.20	▲0.43	0.03	▲0.01	0.01	▲0.11	▲0.19	▲0.03	▲0.32

資料:県統計分析課「消費者物価指数 月報」

※ **寄与度**とは、ある費目の指数の変動が、総合指数の変化率のうち何ポイント寄与したかを示したものであり、全費目の寄与度を合計すると、原則として、総合指数の前月比及び前年同月比(%)の値に一致する。

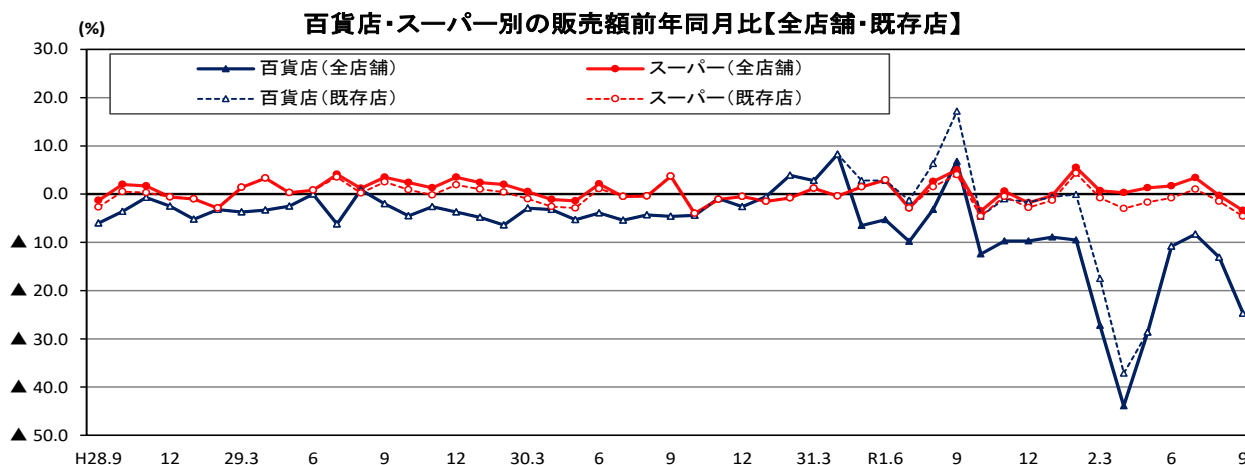
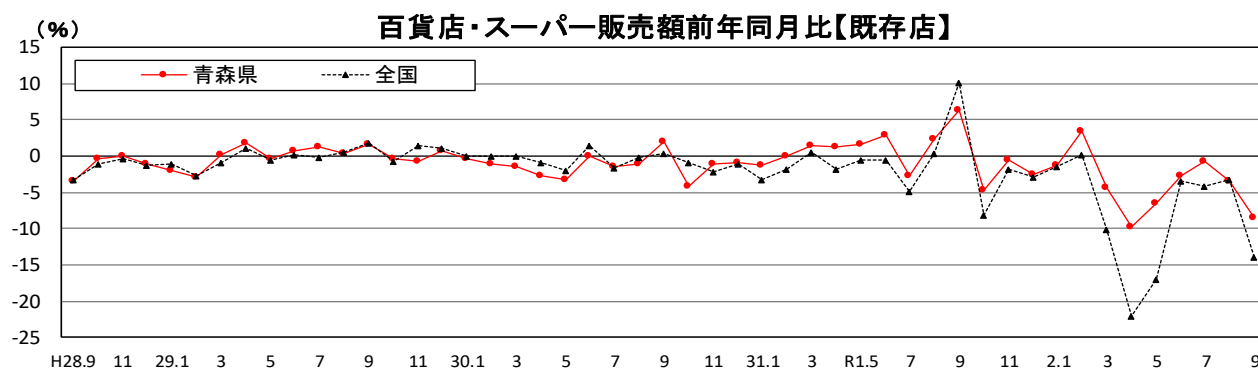
前月比、前年同月比及び寄与度は、端数処理前の指数値を用いて計算しているため、公表された指数値を用いて計算した値とは一致しない場合がある。

本資料は総務省統計局「小売物価統計調査」の調査票情報を独自集計したものである。

## (2-4) 個人消費

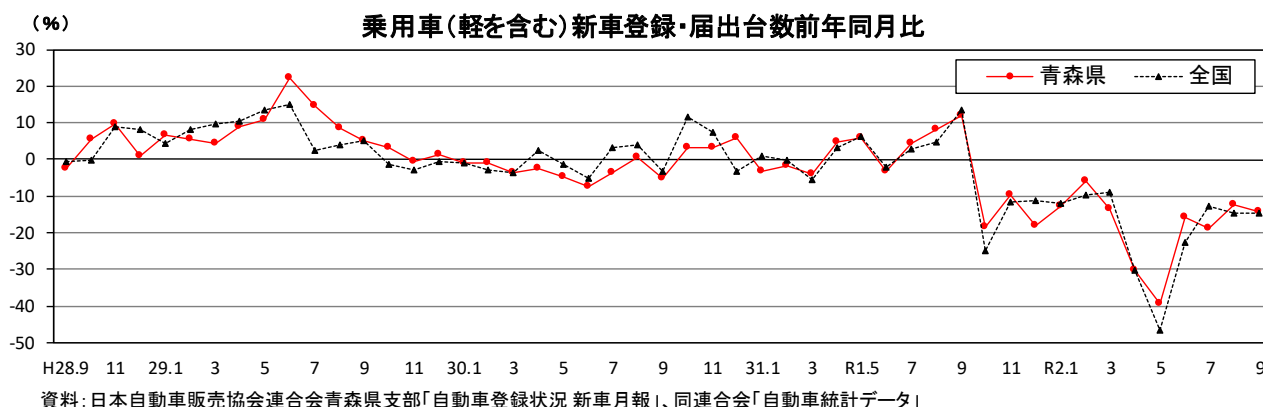
### (2-4-1) 百貨店・スーパー販売額

令和2年9月の百貨店・スーパー販売額は、140億円で全店舗ベースが前年同月比7.1%減となり、2カ月連続で前年同月を下回った。また、既存店ベースでは前年同月比8.5%減となり、7カ月連続で前年同月を下回った。



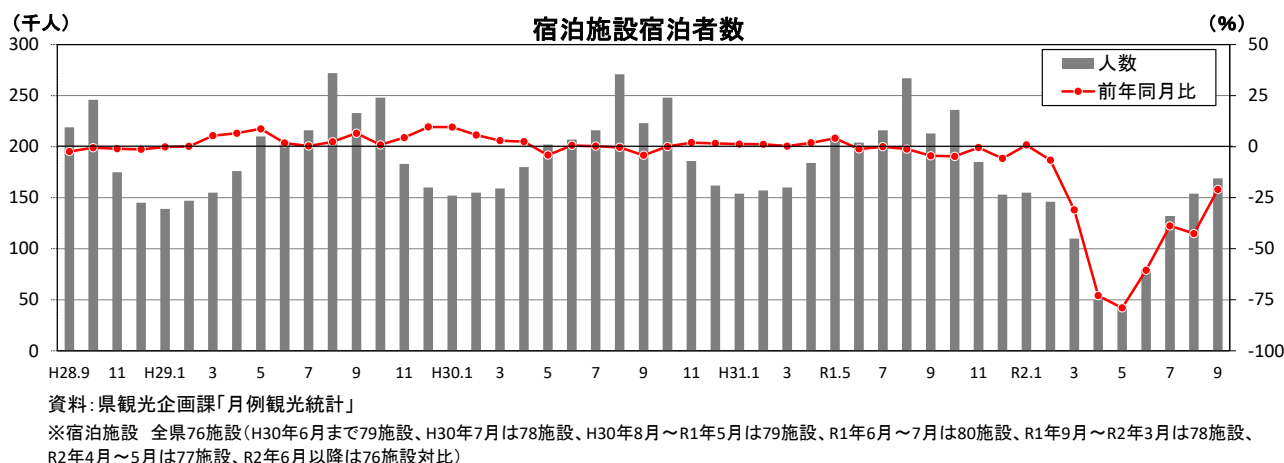
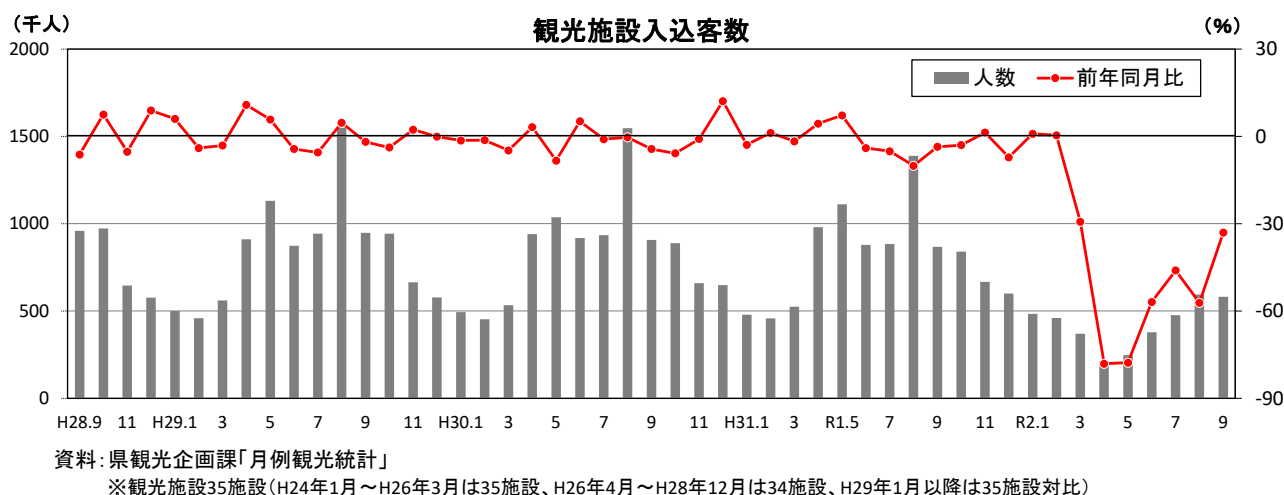
## (2-4-2) 乗用車新車登録・届出台数

令和2年9月の軽乗用車を含めた乗用車新車登録・届出台数は3,954台で、前年同月比14.4%減となり、12カ月連続で前年同月を下回った。普通車、小型車、軽乗用車がいずれも減少したことによる。



## (2-4-3) 観光入込客数・宿泊者数

令和2年9月の主な観光施設の観光入込客数は、58万1千人で前年同月比33.1%減となり、7カ月連続で前年同月を下回った。また、主な宿泊施設の宿泊者数は、16万9千人で前年同月比20.9%減となり、8カ月連続で前年同月を下回った。観光施設、宿泊施設ともに、県内全域で減少した。

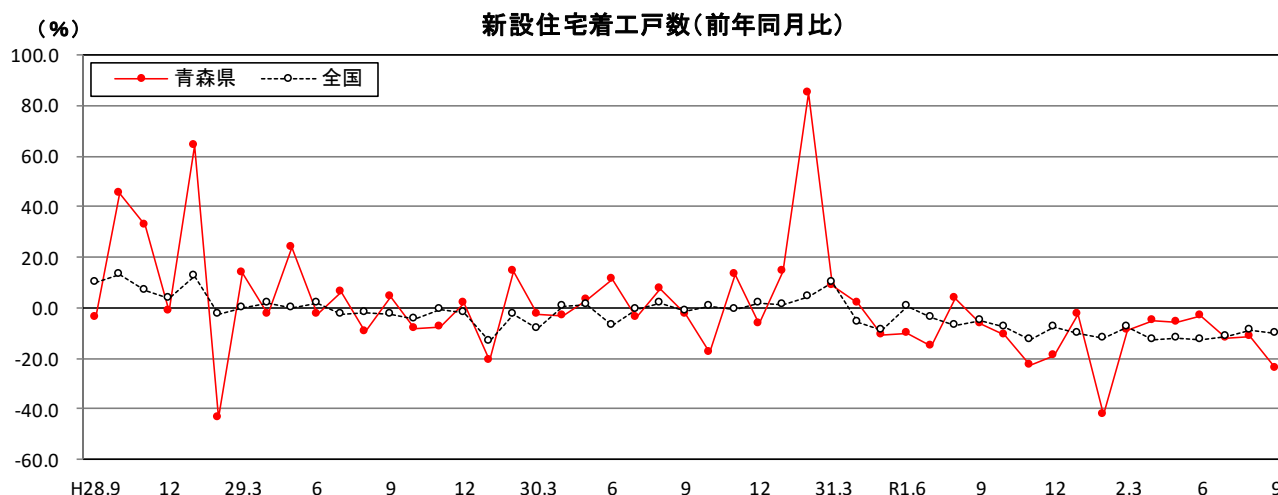




## (2-5) 建設

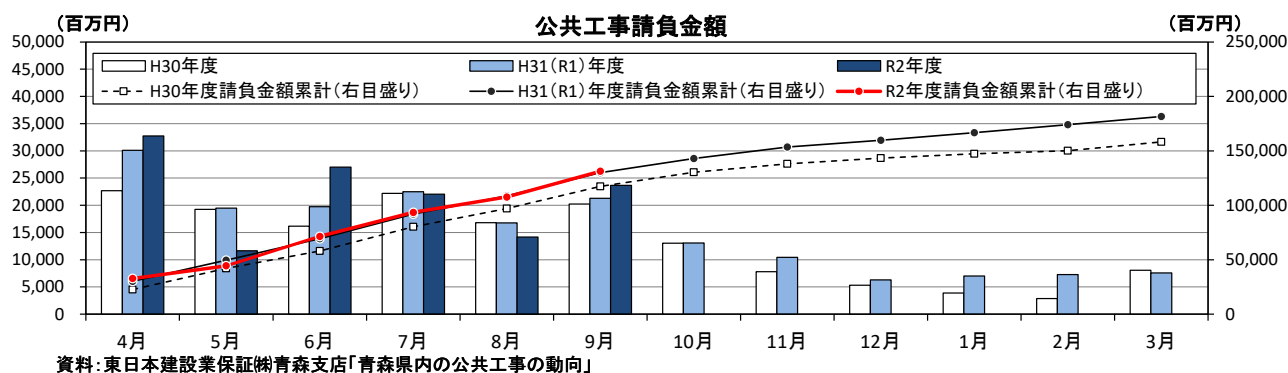
### (2-5-1) 住宅建設

令和2年9月の新設住宅着工戸数は479戸で前年同月比24.1%減となり、13カ月連続で前年同月を下回った。主に貸家、分譲住宅等が減少したことによる。



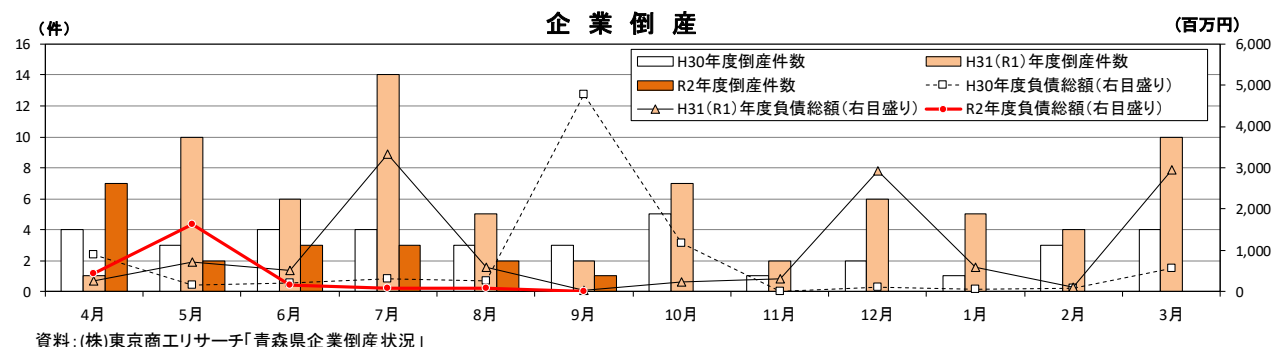
### (2-5-2) 公共事業

令和2年9月の公共工事請負金額は236億5,000万円の前年同月比11.1%増となり、県や市町村の増加により3カ月ぶりに前年同月を上回った。また、令和2年9月までの累計金額は1,312億4,200万円の前年同期比1.0%増となった。



### (2-6) 企業倒産

令和2年9月の企業倒産は、件数は1件で前年同月比50.0%減となった。負債総額は1,600万円の前年同月比62.8%減となった。また、令和2年9月までの累計倒産件数は18件で前年同期比52.6%減、負債総額は24億2,200万円の前年同期比55.5%減となった。



### (3) 青森県景気動向指数

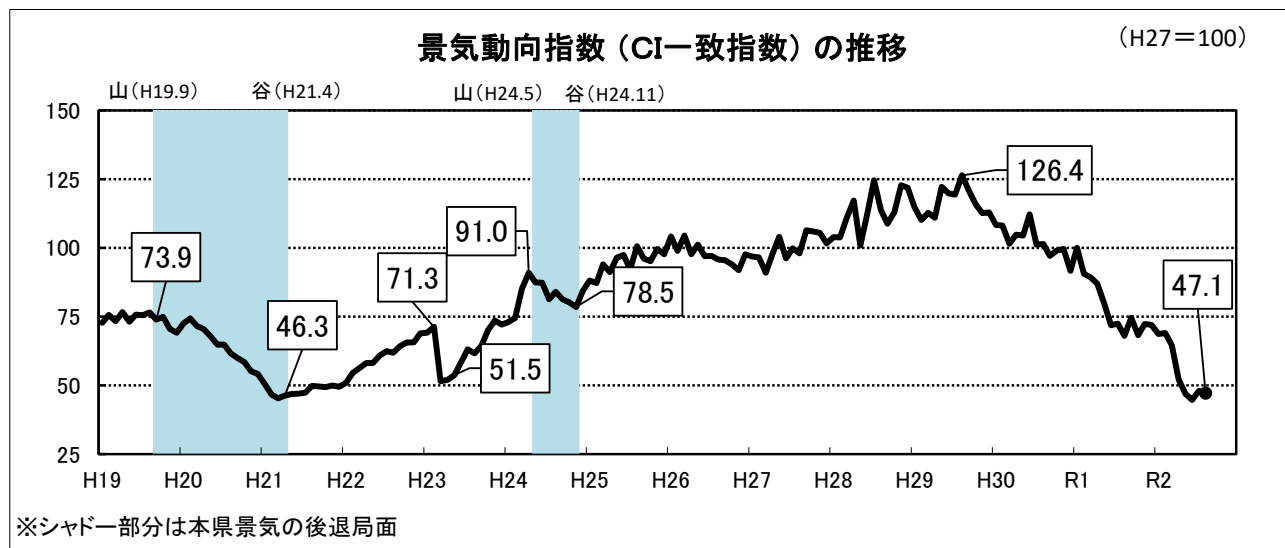
令和2年8月の青森県景気動向指数（C I）は、先行指数 95.5、一致指数 47.1、遅行指数 107.9 となった。

先行指数は、前月を 0.6 ポイント下回り、4 カ月ぶりに下降した。

一致指数は、前月を 0.9 ポイント下回り、2 カ月ぶりに下降した。

遅行指数は、前月を 1.3 ポイント下回り、2 カ月連続で下降した。

8月の一致指数は、雇用、消費関連の指標がマイナスになったことから下降した。



●個別系列の動き（各指標は季節調整等を行い、寄与度を前月と比較しています）

●個別モノの動き（各指標は季節調整等を行い、前年度を前分と比較して示す）

寄与度がプラスの指標			寄与度がマイナスの指標		
先行系列					
日経商品指数（42種）	2.59	4カ月連続	新設住宅着工床面積	-3.34	3カ月ぶり
乗用車新車登録届出台数	1.46	2カ月ぶり	企業倒産件数（逆サイクル）	-0.63	4カ月ぶり
生産財生産指数	0.26	3カ月連続	中小企業景況D I	-0.62	4カ月ぶり
新規求人倍率（全数）	0.25	2カ月連続	建築着工床面積	-0.35	2カ月連続
一致系列					
輸入通関実績（八戸港）	0.36	2カ月連続	有効求人倍率（全数）	-0.80	2カ月ぶり
投資財生産指数	0.30	2カ月連続	百貨店・スーパー販売額（既存店）	-0.53	4カ月ぶり
旅行取扱高	0.05	3カ月連続	所定外労働時間指数（全産業）	-0.21	3カ月ぶり
			鉱工業生産指数	-0.01	2カ月ぶり
遅行系列					
常用雇用指数（全産業）	1.47	2カ月連続	有効求職者数（全数）（逆サイクル）	-2.11	4カ月ぶり
家計消費支出（勤労者世帯：実質）	1.06	2カ月ぶり	りんご消費地市場価格	-1.31	7カ月ぶり
県内金融機関貸出残高	0.35	7カ月連続	公共工事請負金額	-0.46	2カ月連続
			青森市消費者物価指数（総合）	-0.07	3カ月ぶり

（参考）青森県景気動向指数（D I）

先行指数 62.5% （17カ月ぶりに50%を上回った）

一致指数 14.3% （8カ月連続で50%を下回った）

遅行指数 57.1% （2カ月ぶりに50%を上回った）

#### (4) 青森県景気ウォッチャー調査 (令和2年10月期)

現状判断DIは、Go To トラベル等の経済対策の効果や、新型コロナウイルス感染症の影響が最も強かった時期と比べれば、新しい生活様式への慣れなどから客数や売上が回復してきていることなどを受け、前期比15.0ポイント増加の49.5となった。

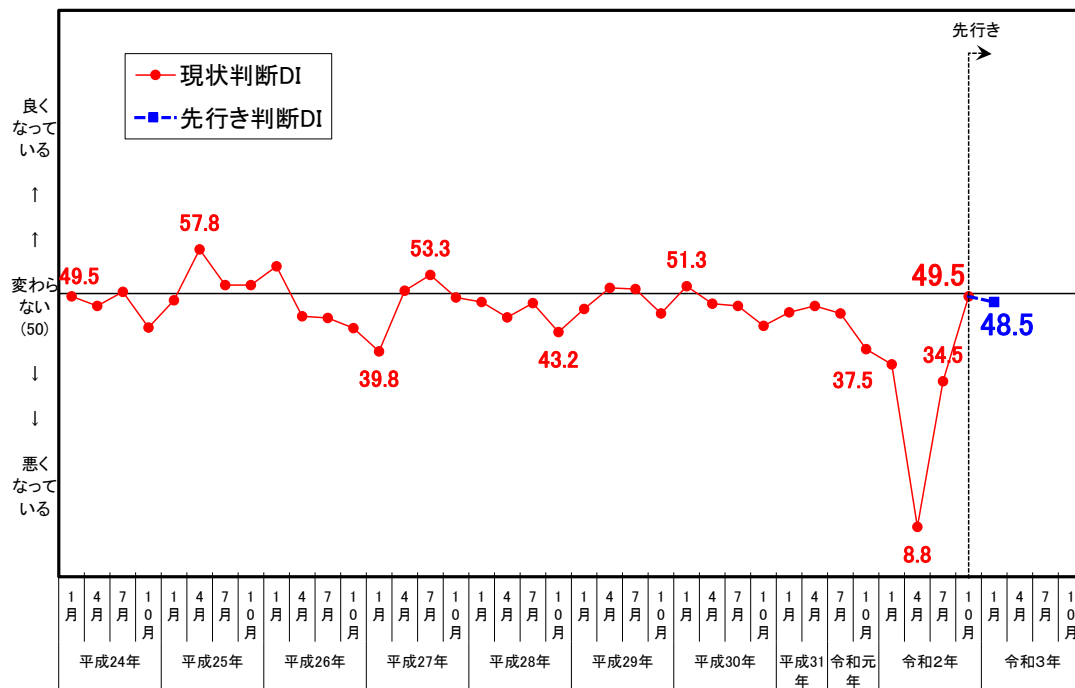
先行き判断DIは、Go To トラベル効果やイベント等の開催、年末年始の経済活動への期待などから、前期比10.5ポイント増加の48.5となったが、インフルエンザ等別の感染症の流行時期が到来することへの懸念や、先行きの不透明感などを挙げる声もあった。

3カ月前と比べた景気現状判断DIは、景気の横ばいを示す50を11期連続で下回った。

3カ月後の景気の先行き判断DIは、景気の横ばいを示す50を6期連続で下回った。

(調査期間 令和2年10月1日～10月20日 回答率 98%)

景気現状判断DIの推移・今後の先行き判断DI



#### ● 3カ月前と比べた景気現状判断

動

前期調査と比べると、「良くなっている」が0.1ポイント増加、「やや良くなっている」が19.7ポイント増加、「変わらない」が0.5ポイント減少、「やや悪くなっている」が1.5ポイント増加、「悪くなっている」が20.8ポイント減少となり、全体では15.0ポイント増加の49.5となった。

向

判断理由では、Go To トラベル等の経済対策の効果が出ているとの声や、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響が最も強かった時期と比べれば、新しい生活様式に人々が慣れてきたこともあり、人の動きが戻り客数や売上が回復してきているという声がある一方で、感染症の影響は依然として大きく、売上も減少傾向が続いているとの声も多かった。

地区別では、前期調査と比べて、全地区でポイントが増加した。東青地区においては、景気の横ばいを示す50を平成31年4月期以来6期ぶりに上回った。

#### ● 3カ月後の景気の先行き判断

動

前期調査と比べると、「良くなる」が1.0ポイント減少、「やや良くなる」が9.6ポイント増加、「変わらない」が7.7ポイント増加、「やや悪くなる」が1.6ポイント増加、「悪くなる」が17.9ポイント減少となり、全体では10.5ポイント増加の48.5となった。

向

判断理由では、Go To トラベル効果やイベント等の開催への期待のほか、年末年始の経済活動への期待を挙げる声があった一方で、今後も新型コロナウイルス感染症の影響が続くことへの不安や、インフルエンザ等別の感染症の流行時期が到来することへの懸念、先行きの不透明感、クラスターが発生したことに対する警戒などを挙げる声があった。

地区別では、前期調査と比べて、全地区でポイントが増加したが、いずれの地区においても景気の横ばいを示す50をわずかに下回った。

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」

### ○3カ月前と比べた景気の現状判断理由

◎	宿泊利用について、ビジネス利用客の移動については、概ね許容されており、GoToトラベルを含む観光需要増や自粛期間から延期された利用などにより増加傾向にある。(都市型ホテル=東青)
○	感染拡大防止施策の要件緩和と、GoTo等様々な経済対策が景気を少し向上させている。(一般小売店=東青)
○	新型コロナに対する情報が徐々に浸透してきており未知なる物に対する恐怖は減少傾向のように見える。反対の意見は依然としてあるものの、経済優先の政策に対して人々が慣れ始めており、その最たるものがGoToトラベルなどの動きに表れているが、全体的に今ひとつふんざりがつけられない状態のよう。(タクシー=東青)
○	夏場頃までは、前年比30%台まで落ち込んでいたんですがようやく前年の半分位まで回復してきました。宴会等は相変わらずですが、宿泊が伸びてきています。(都市型ホテル=下北)
○	新型コロナウイルス感染症の流行も落ち着き、新様式の生活にもだいぶ慣れてきて、各種会合、人手も増えてきているが、冠婚葬祭関係等はまだまだ回復の兆しが見えない。(経営コンサルタント=津軽)
○	コロナの影響の最悪時と比較すると、ホテルの会合や飲食店の人も以前より徐々に戻ってきている。(飲料品製造=県南)
○	新型コロナウイルスによる経済への影響は、特にサービス・観光・飲食業、更に海外取引のある製造業、またその関連企業に対して非常に大きかったが、徐々に客足が戻る傾向があると感じる。但し、一部の製造業については回復の兆しが見えていない。(人材派遣=県南)
□	現在の景気が平行状態と感じている。また、景気が良い業界と悪い業界の差も大きいと感じている。(乗用車販売=東青)
□	小売業、特に食品関連のスーパーは外食の自粛によりお客様の購買意欲が落ちていない。(スーパー=下北)
□	悪い意味で変わらない。コロナが終息に向かったとしても、我々の様なイベント会社は、中止と決定された以上、仕事は、消滅しました。(広告・デザイン=県南)
□	新型コロナウィルスの影響が続いている。GoToキャンペーンや地域で発行しているプレミアム商品券などの効果はあっても一時的で、冷え込んだ地域経済を押し上げるまでに至っていない。(新聞社求人広告=津軽)
△	10月からの第3のビール・たばこの増税により、消費は下向き傾向に感じます。(スーパー=津軽)
△	コロナ、クラスター発生を受けて町に人がいない。(美容院=津軽)
△	コロナ禍で自粛傾向にあるため。(一般小売店=下北)
△	求人数が激減している。(人材派遣=東青)
×	コロナの影響と景気悪化の為にどうしたらいいか解らない毎日です。(スナック=東青)
×	コロナで会議、結婚式がないためスーツが売れない。(衣料専門店=津軽)

記号の意味：◎良くなっている、○やや良くなっている、□変わらない、△やや悪くなっている、×悪くなっている

### ○3カ月後の景気の先行き判断理由

○	コロナが終息し、年末年始活動が活発になる？(旅行代理店=東青)
○	「GoToトラベル」の結果が出てほしい。とにかく人の動きがないことにはどうにもならない。(タクシー=県南)
○	GoToトラベルでホテルの宿泊者は10月いっぱいにはコンスタントに入っているようですが、11・12月の忘年会のシーズンはどうなるのか？良くなると期待を込めて…。(ガソリンスタンド=下北)
○	完全にもとには戻らないと思うが、例年の年末に向けての流れは出てくると思う。あくまでも現在と比較しての考えではある。(飲料品製造=県南)
○	様々な業種の企業・団体が、コロナ対策のもと、冬季・年末年始の経済活動・イベントなどを開催して頂くことで、少しでも景気が上向きになることを期待したい。(人材派遣=県南)
□	「変わらない」というよりも、これまで通り感染症如何によって良くも悪くもなると思うので、「わからない」というのが本音です。(百貨店=東青)
□	インフルエンザとコロナウイルスにより、自粛ムードが強まると予想されるため。(一般飲食店=津軽)
□	政府のGoToトラベルやGoToイート、イベントの人数制限の緩和など景気対策が実施されていますが、他県からの来県者が増えることで、逆に地元の方は人ごみになるような場所(大型ショッピングセンターなど)へ行くことを避ける人も少なくないと思います。(スーパー=津軽)
□	プレミアム商品券、宿泊キャンペーンなど積極的な政策によって、多少の効果はあると想定するが、コロナの状況が大きく前進しない限り、単発的なものとして終わると思われる。(広告・デザイン=東青)
□	このままGoToトラベルで感染が地方に広がらなければ、ある程度の回復は見込まれると思うが、まだコロナが下火と変わったとは言えない状況にあり、個人の感染対策も緩んできていることから、今後景気がどちらに傾くかは予断を許さない。(建設=県南)
△	いわゆるオフシーズンを迎え、県外からの観光客も少なくなり、これまでの期間多く来てもらった地元客に再び来て貰う努力をしなければならない。(観光型ホテル・旅館=東青)
△	コロナがまだ収まるとも思えませんし、10月1日から様々な商品の値上げもあり、当分景気が良くなるとは思えません。(一般小売店=下北)
△	ワクチンと治療薬が提示されるまでは不安と恐怖は消えないでしょう。(建設=東青)
△	やはり旅行や飲食にかかわる人の仕事が大きく減っており、廃業など周囲に与える影響は今後避けられない。航空や鉄道の関係の受注も減ってきた。(電気機械製造=県南)
×	コロナ禍の中での先行き不透明感が社会情勢として蔓延。特にインフルエンザシーズンに入る事も要因。(衣料専門店=県南)
×	弘前市内で新型コロナウイルス感染のクラスターが発生したこと、また、ウィズコロナの時代、新しい生活様式の下では経済活動も限定的で、収束しない限り良くはならないのでは。(新聞社求人広告=津軽)

記号の意味：◎良くなる、○やや良くなる、□変わらない、△やや悪くなる、×悪くなる

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」